簿記の５要素

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　簿記の５要素を覚えよう！

②　簿記の５要素とP/L・B/Sの関係を覚えよう！

（1）簿記の５要素とは？

簿記は日々の活動（これを**取引**といいます）を帳簿へ記入しますが、**財政状態**を表す要素として**資産**、**負債**、**純資産**、**経営成績**を表す要素として**収益**、**費用**の５つの要素に分類して処理します。これを**簿記の５要素**といいます。

- **財政状態：資産、負債、純資産**
- **経営成績：収益、費用**

① 資産

資産とは、経営活動に役立つ財産をいいます（**プラスの財産**とイメージして下さい）。具体的には、現金、預金、売掛金、貸付金、商品、建物、備品、土地などが該当します。

② 負債

負債とは、将来お金を支払う義務をいいます（**マイナスの財産**とイメージして下さい）。具体的には、借入金、買掛金、未払金などが該当します。

③ 純資産

純資産とは、資産から負債を差し引いた財産（**資産－負債＝純資産**）です（プラスの財産である資産からマイナスの財産である負債を差し引いた**純額の財産**とイメージして下さい）。また、純資産は会社を始める時にあらかじめ用意した元手となるお金と元手をもとに商売で儲けたお金（**利益**といいます）から構成されます。

具体的には、資本金、利益準備金、繰越利益剰余金などが該当します。なお、純資産のことを資本という場合もあります。

貸 借 対 照 表（B/S）

資　産	**負　債**
	純資産

④　収益

収益とは、商品を販売した売上(うりあげ)など、財産を増やす原因であり、商売によって獲得した成果(せいか)です。具体的には、売上、受取利息(うけとりりそく)、受取家賃(うけとりやちん)、受取手数料(うけとりてすうりょう)などが該当します。このように、収益は「受取(うけとり)」という言葉が付く場合が多いです。

⑤　費用

費用とは、商品を購入（仕入(しいれ)といいます）した金額や人件費(じんけんひ)、広告宣伝費(こうこくせんでんひ)など、財産を減らす原因であり、収益を獲得するためにかかった犠牲(ぎせい)です。具体的には、仕入、給　料(きゅうりょう)、広告宣伝費、支払利息(しはらいりそく)、支払手数料(しはらいてすうりょう)などが該当します。このように、費用は「支払(しはらい)」や「費(ひ)」という言葉が付く場合が多いです。

損益計算書（P/L）

費　用	**収　益**
（利　益）	

利益は収益と費用の差額であり、簿記の５要素ではありません。

（２）簿記上の取引

簿記は日々の活動（取引）を帳簿に記入しますが、帳簿へ記入すべき取引は簿記の5要素である**資産・負債・純資産・収益・費用を増減させる取引**です。これを**簿記上の取引**(ぼきじょうのとりひき)といいます。一般に用いる「取引」という言葉と意味内容が異なる場合があるので注意して下さい。

例えば、不動産の賃貸契約(ちんたいけいやく)を取り交わした場合、一般には取引という言葉を用いるかもしれませんが、簿記では、契約の段階では簿記の5要素が増減していませんので、簿記上の取引とはなりません。実際に賃貸期間(ちんたいきかん)が開始し、賃料が発生した時に簿記の5要素が増減するため、簿記上の取引となります。

（３）簿記の５要素と損益計算書・貸借対照表との関係

資産、**負債**、**純資産**は**財政状態**を表す要素ですので、**貸借対照表（B/S）**に記載します。また、**収益**、**費用**は**経営成績**を表す要素ですので、**損益計算書（P/L）**に記載します。

・財政状態：資産、負債、純資産 ⟶ 貸借対照表（B/S）
・経営成績：収益、費用 ⟶ 損益計算書（P/L）

貸借対照表の**左側に資産**を、**右側に負債・純資産**を記載します。ここで、貸借対照表の左側の合計金額と右側の合計金額は必ず一致します（**資産＝負債＋純資産**）。貸借対照表は左側と右側が一致（バランス）しますので、バランスシートというのです。なお、貸借対照表の右側は「負債 → 純資産」の順番で記載します。

損益計算書の**右側に収益**を、**左側に費用**を記載し、収益と費用の差額で**利益**を算定します（**収益－費用＝利益**）。なお、利益は収益と費用の差額であり、簿記の５要素ではありません。

貸 借 対 照 表（B/S）

資　産	**負　債**
	純資産

損 益 計 算 書（P/L）

費　用	**収　益**
（利　益）	

Point!　簿記の5要素がB/S・P/Lの右か左のどちらに記載されるかを覚えよう！

勘　定

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　借方と貸方を覚えよう！

②　勘定記入のルールを覚えよう！

（１）勘定とは？

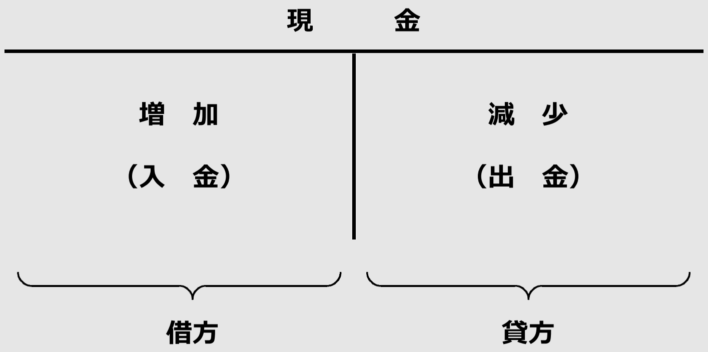
勘定（かんじょう）とは、資産・負債・純資産・収益・費用を記録・計算するための細分化した項目をいいます。**勘定口座**（かんじょうこうざ）とは、日々の活動である取引を記録する表（場所）であり、資産・負債・純資産・収益・費用の増加と減少を左側と右側に分けて記入します。これにより、それらの増加および減少、さらには残りの金額（**残高**（ざんだか）といいます）を記録します。勘定にはその内容がわかるように具体的な名前をつけますが、その名前を**勘定科目**（かんじょうかもく）といいます。

例として、現金勘定を示します。正式な勘定の形式は以下です。

現　　金

日付	摘　　要	仕丁	借　方	日付	摘　　要	仕丁	貸　方

また、アルファベットの「Ｔ」の形をしているＴ勘定という簡略版の勘定で示しますと、以下のようになります。現金の増加（入金）は左側、現金の減少（出金）は右側に記入します。なお、簿記では左側のことを**借方**（かりかた）、右側のことを**貸方**（かしかた）といいます。



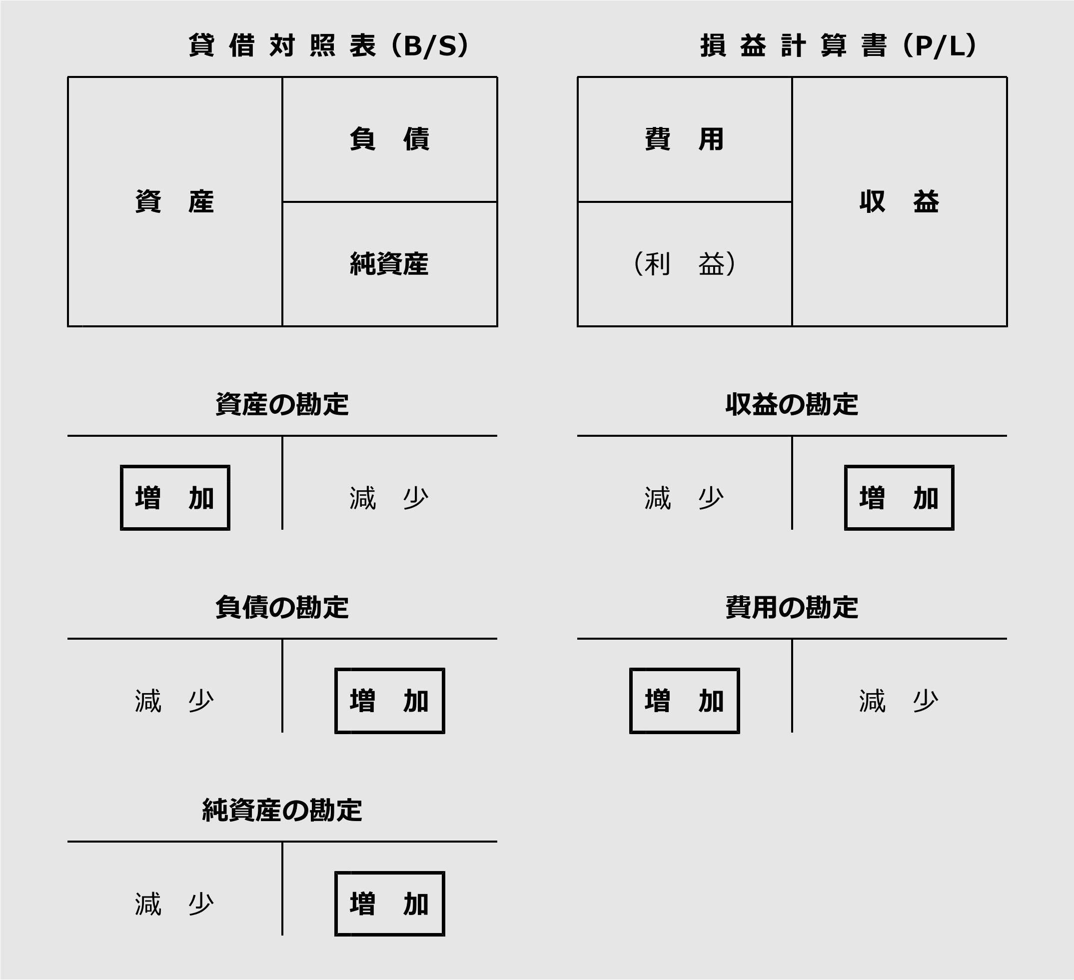
Point!　借方の「り」と貸方の「し」に着目して、借方が左、貸方が右と覚えよう！

（２）勘定記入のルール

各勘定への記入は、簿記の５要素に関連して記入のルールが決まっています。

貸借対照表と損益計算書の**左側（借方）**に記載される**資産・費用**については、**増加は左側（借方）**に、減少は右側（貸方）に記入します。

貸借対照表と損益計算書の**右側（貸方）**に記載される**負債・純資産・収益**については、**増加は右側（貸方）**に、減少は左側（借方）に記入します。



Point! **P/LとB/Sに記載される側が､｢増加の記入側｣と覚えよう！**

簿記の基本原理①　問題

問題1　以下の①から⑤にあてはまる語句を記入しなさい。

貸 借 対 照 表

①	②
	③

損 益 計 算 書

④	⑤
利　益	

問題2　以下の①から⑩に、その勘定の借方または貸方へ増加したときに記入される場合には「増加」、減少したときに記入される場合には「減少」と記入しなさい。

資産の勘定

①	②

負債の勘定

③	④

純資産の勘定

⑤	⑥

収益の勘定

⑦	⑧

費用の勘定

⑨	⑩

簿記の基本原理① 答案用紙

問題1

①		②		③	
④		⑤			

問題2

①		②		③	
④		⑤		⑥	
⑦		⑧		⑨	
⑩					

簿記の基本原理①　解答解説

問題1　**解答**

①	資　産	②	負　債	③	純資産
④	費　用	⑤	収　益		

問題1　**解説**

　貸借対照表の借方（左側）に資産、貸方（右側）に負債、純資産を記入します。また、損益計算書の貸方（右側）に収益、借方（左側）に費用を記入し、収益から費用を差し引いて利益を算定します。

貸 借 対 照 表

① 資　産	② 負　債
	③ 純資産

損 益 計 算 書

④ 費　用	⑤ 収　益
利　益	

問題2　**解答**

①	増　加	②	減　少	③	減　少
④	増　加	⑤	減　少	⑥	増　加
⑦	減　少	⑧	増　加	⑨	増　加
⑩	減　少				

問題2　**解説**

資産・費用は増加は借方（左側）に、減少は貸方（右側）に記入します。また、負債・純資産・収益は増加は貸方（右側）に、減少は借方（左側）に記入します。

資産の勘定

①増　加	②減　少

負債の勘定

③減　少	④増　加

純資産の勘定

⑤減　少	⑥増　加

収益の勘定

⑦減　少	⑧増　加

費用の勘定

⑨増　加	⑩減　少